



校内研修の進め方(研究協力校実践例紹介)

—焼津市立大井川中学校の取組—

焼津市立大井川中学校は、校内研修体制の充実によるカリキュラム・マネジメントを推進している学校です。学校全体で、生徒に育成を目指す資質・能力を「思考力」として設定・共有し、組織的なPDCAサイクルを意識した校内研修を推進しています。生徒の視点からの授業改善を目指し、校内研修における授業検討会では、授業設計診断4項目を活用した授業デザイン、授業前後理解比較法と学習過程可視化法を活用した事後研修を実施しています。以下、校内研修における授業検討会の流れを紹介します。



▲資質・能力の育成を目指した組織的な授業研究のイメージ

(1) 事前研修(模擬授業)

公開予定の授業について、職員全員での事前研修を行いました。その際、職員を生徒役にして模擬授業を行うことで、生徒の目線からの協議を行いました。協議では、

- ①生徒役の表れ(発言、思考の流れなど)が授業者の想定と一致しているか、またはどのようなズレが生じているかの確認
- ②①を根拠に、「解決したい課題や問い」「考えるための材料」について改善案の検討(特に「解決したい課題や問い」を中心に)が熱心に行われていました。



▲事前研修の様子

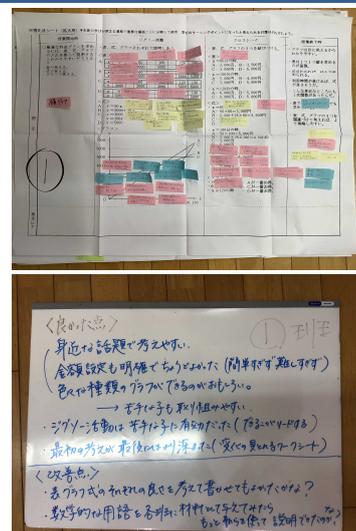
(2) 公開授業

公開授業では、授業者が「授業前後理解比較法」を用いて、ワークシートに授業の冒頭と終末場面における生徒の考えを書かせて見取りました。また、「学習過程可視化法」を用いて、生徒一人につき職員一人が観察者として設定され、授業中の表れを見取り、付箋紙に記録していきました。

(3) 事後研修

事後研修では、授業で見取った生徒の表れを「学習過程可視化シート」に貼り出していきます。「学習過程可視化シート」には、授業者が想定した生徒の表れがあらかじめ記載されており、実際の生徒の表れが想定と一致しているか、またはどのようなズレが生じているかが確認できるようになっています。協議では、授業者の想定と実際の生徒の表れとを比べ、一致したところやズレが生じた原因を、生徒の表れを根拠に分析し、「解決したい課題や問い」「考えるための材料」など授業者の手立てについて、良かった点や改善点を協議していきます。事前研修において、公開授業の参観の視点や事後研の協議のポイントを共有しているため、充実した事後研修が行われました。最後に「協議を踏まえ、これからの自分自身の授業改善に生かしていきたいこと」について考え、公開授業者も含め、参加者全員の授業改善への意欲を喚起していました。

(今回は小中学校支援課が担当しました)



▲学習過程可視化シート(上)と協議のまとめ(下)